

## 公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会 中期経営計画

この中期経営計画では、公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会（以下「日本協会」という）の活動理念を示し、その上で目標年次を 2020 年として、理念に基づき創るべき社会の姿と協会のあるべき姿を示します。

あわせて、計画実現のための実行計画（アクションプラン）についてまとめたものです。

### ■日本協会の理念

公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会は、  
ネイチャーゲームをはじめとするシェアリングネイチャー活動を通して、  
自然とふれあう楽しさを感じ、  
自然から学ぶよろこびを知り、  
自然との一体感により生まれる心の平安をみいだす  
人を育むことにより、  
人が自然を尊重し共生していく社会をつくります。

### ■2020 年の姿

<2020 年に向けてめざす「社会」の姿>

あらゆる生命が共生していける地球環境を構築するために、人と自然の深いつながりがよりよいかたちで将来にわたって持続されている社会を構築する必要性を人々が認識し、その実現のためのアクションを起こしている社会です。

<2020 年にあるべき「日本協会」の姿>

安定した経営基盤の上に立ち、2020 年にあるべき社会づくりに、それぞれの位置において参画する人の育成・支援を継続している協会です。

### ■取り組みの柱

2020 年にあるべき日本協会の姿を実現させるために必要な取り組みの柱として、以下の 3 点を設定します。

#### 第 1 の柱（事業）

シェアリングネイチャーの理念を広く世界に発信するため、情報発信力を強化すると共に、人が育つ基盤を整備します。

#### 第 2 の柱（組織）

会員の想いを一つの力に結集させていく組織体制を構築します。

#### 第 3 の柱（基盤整備）

継続的な事業展開のために必要な運営基盤を整備します。

## 中期経営計画 実行計画（アクションプラン）

中期経営計画の目標年次である2020年における、日本協会のあるべき姿を実現するために必要な3つの柱について、その取り組みの方向性を実行計画（アクションプラン）として以下に示します。

その詳細な取り組み内容については、各年次の事業計画において具体化していきます。また、各テーマの進捗状況の評価は逐次行っていきます。

### 2020年に向けた取り組み 3つの柱

第1の柱 シェアリングネイチャーの理念を広く世界に発信するため、情報発信力を強化すると共に、人が育つ基盤を整備します。

第2の柱 会員の想いを一つの力に結集させていく組織体制を構築します。

第3の柱 継続的な事業展開のために必要な運営基盤を整備します。

中期経営計画を実現させるため、日本協会、都道府県シェアリングネイチャー協会（以下「都道府県協会」という）、地域の会・課程認定校研究会（以下「地域実践団体」という）、会員等（以下「会員」という）それぞれの主体が、それぞれの立場で以下の各プランを実行していきます。

このプランは日本におけるシェアリングネイチャー活動に関わる各主体の行動指針となるものです。

### ■各主体の役割

#### 日本協会

シェアリングネイチャーの理念を広く国民に対して普及推進していく

#### 地方ブロック

広域のゆるやかな連携により、シェアリングネイチャー活動の普及・充実を進めていく

#### 都道府県協会

- 1 域内のシェアリングネイチャー普及戦略をたて実践する
- 2 域内でおこなわれる実践活動をサポートする
- 3 域内のシェアリングネイチャー活動の問い合わせ窓口となる

#### 地域実践団体

シェアリングネイチャー活動を展開する

#### 会員

シェアリングネイチャー活動を実践・利用する

（注：地方ブロック、都道府県協会や地域実践団体を合せて以下「地域組織」という）

## 実行計画（アクションプラン）

### 第1の柱

シェアリングネイチャーの理念を広く世界に広めるため、情報発信力を強化すると共に、人が育つ基盤を整備します。

シェアリングネイチャーの理念に基づき、さまざまなルートを通じたサービスの提供や情報の発信を行っていきます。

### プラン1-1 シェアリングネイチャーを普及する（日本協会ミッション）

#### アクション1-1-1 社会のためにあるべきシェアリングネイチャーの研究を行い発信します

みんながシェアリングネイチャーを実践できるようになるための手法や情報についての研究を行い、さまざまな手段により発信していきます。

#### アクション1-1-2：全国の実践事例を集約・発信する活動を推進します

シェアリングネイチャー活動の事例を発信していくため、全国から専門領域研究や優れた実践例の集約を効率的に行う仕組みを構築します。

#### アクション1-1-3：サービス提供・情報発信の担い手を養成します

質の高い指導者を多方面で養成し、育成していきます。従来のネイチャーゲームリーダーの育成に加え、新たな情報の発信の担い手となる人材についての検討を進めます。

#### アクション1-1-4：国際組織、他の団体や事業者などとの連携を進めます

全国ネットの強みを活かし、スポンサーとなりたい事業者や団体の発掘を進めます。また、資金などの調達やそれらの事業者などと連携したキャンペーンの実施、事業者の家族や構成員などのメンバーへのシェアリングネイチャーの普及などを行います。

あわせてシェアリングネイチャーワールドワイド（SNWW）のネットワークに参画し、世界の仲間たちとの交流を図ります。

### プラン1-2 シェアリングネイチャーの情報を発信する（地域組織ミッション）

#### アクション1-2-1：地域における情報などの発信源となります

地域の状況に応じて適切な時期に、適切な対象者へ、みんながシェアリングネイチャーを楽しめる場の提供や情報を発信していきます。あわせて、指導者間の情報交流を図ります。

### プラン1-3 シェアリングネイチャーを実践する（会員ミッション）

#### アクション1-3-1：シェアリングネイチャーを自ら実践します

シェアリングネイチャーの理念を日常生活の中で実践していきます。あわせて身近な人にも伝えていく機会を可能な限り作ります。その成果や、よりよい取り組みに向けたフィードバックを地域組織や日本協会に対して行っていきます。

## 第2の柱

会員の想いを一つの力に結集させていく組織体制を構築する

会員の想いが一つの力に結集された形で日本協会の運営を行い、社会や各組織、会員が求める日本協会とするために、日本協会や、都道府県協会、地域実践団体、一人ひとりの会員・加盟団体、それぞれの間でよどみのない相互の意思伝達を行っていきます。

### プラン2-1 双方向に「想い」を届けるルートを強化する（日本協会ミッション）

#### アクション2-1-1：都道府県協会・地域実践団体・加盟団体との連携強化を図ります

会員向けサービス並びに会員の意思の集約ルートとして重要な都道府県協会と日本協会のミッションを明確にし、相互の役割分担により、限られた経営資源を効率的に活かした事業展開を進めます。これを通じて相互の関係強化を図り、都道府県協会や地域実践団体の運営を支援する体制と、様々な「想い」が双方向に流れる仕組みを強化します。

#### アクション2-1-2：ブロック体制を活用していきます

地域組織および各地域の会員や市民へのサービスの充実を図るため、地域の実情に応じ、ブロック体制を活用して地域組織の連携を推進します。

#### アクション2-1-3：全国で統一して取り組める課題を提示していきます

全国の会員が一つの想いを持って取り組める共通課題を設定することで、目に見える運動の統一感の醸成を図ります。あわせて指導者会員の活動の場の拡充を図ります。

#### アクション2-1-4：会員の直接的な運営参加の機会を提供します

会員から事業内容を評価してもらう仕組みや提案制度の導入、アンケート・会員意識調査の充実など、会員と日本協会との直接的なコミュニケーションを強化しながら、そこで寄せられた「想い」を組織運営に反映させていきます。

#### アクション2-1-5：会員と共にある事務局づくりを推進します

さまざまな現場に直接参加するなど、日本協会役職員と会員のコミュニケーションの場を積極的に設けます。

### プラン2-2 都道府県協会の機能を高める（地域組織ミッション）

#### アクション2-2-1：都道府県協会によるシェアリングネイチャー活動推進の戦略を立てます

都道府県内におけるシェアリングネイチャー活動が活性化するために必要な施策を立案し、中心となって実施します。

#### アクション2-2-2：都道府県協会の組織力・行動力を強化します

地域組織において地域の会の整理統合や新規開設などを随時進めて組織の活性化を図ると共に、人材や運営資源の集約を図って役割を担える組織として機能を維持・向上させていきます。地域の会については新設・改廃の自由度を高めて、活性化を図り、会員や一般参加者が自然とふれあえる機会を高めます。

#### アクション2-2-3：地域組織の発信力を高めます

各地域組織から、地域の現状と取り組み事項などの情報を地域の会員向けに発信していきます。あわせて地域組織からも日本協会の現状と取り組み事項などについての情報も発信するチャンネルとなります。また、地域組織においても会員の取り組み事例や、希望・意見の集約を行っ

て全国に向けて発信し、情報の共有と風通しのよい組織運営を目指します。

#### **アクション2-2-4：指導者会員の活動の場を拡充させます**

それぞれの組織の実情に合わせながら、受託事業や自主事業の拡充、指導員派遣制度の設置と運用など、加盟団体や指導者会員の活動の場を拡充するように努めます。あわせてシェアリングネイチャーの活動を実践することの喜びが感じられる場としても提供していきます。これを通じてそれぞれの資質を高めることを目指します。

#### **アクション2-2-5：指導者会員の拡大と支援を行います**

指導者の養成や研修の機会を提供し、理念・目的を共有でき、運動を共に担える仲間作りを積極的に進める中で組織の強化を図ります。

#### **アクション2-2-6：域内における関係団体との連携を深めます**

行政や関係団体との情報交換を密にし、連携事業を積極的に推進していきます。

### **プラン2-3 会員として積極的な関わりを強める（会員ミッション）**

#### **アクション2-3-1：積極的に情報を受け止め、発信していきます**

日本協会・地域組織が発信する情報を積極的に受け止めるよう努力します。その上で自らの考えや提言を積極的に発信していきます。

#### **アクション2-3-2：積極的な参画を通して自己実現を図ります**

研鑽や事業への参画、シェアリングネイチャーの実践を通じて、日本協会・地域組織との関係強化や積極的な活用を進めます。

### **第3の柱**

継続的な事業展開のために必要な運営基盤を整備する

組織運営のための基盤を支える、人・物・資金・情報等の経営資源を、安定的に維持できる仕組みを構築して、継続的に協会を運営していくために必要な、安定した経営基盤、人的基盤、事業処理機能が確立された協会を作ります。

### **プラン3-1 確固たる経営基盤を構築する（日本協会ミッション）**

#### **アクション3-1-1：日本協会スタッフの強化を図ります**

日本協会のサービスを提供していく日本協会スタッフの資質の向上、適正な人員の配置を行い、高い水準のサービスが提供できる体制を整えます。さらに、コンプライアンスについての意識付けを行うと共に、事務局内の事務分掌・執行体制の明確化を図る中で組織としてのガバナンスの確保を進めます。

あわせて、理事会は協会スタッフが、安心して勤められる労働条件・職場環境の確保を行います。

#### **アクション3-1-2：事業サービスのためのインフラ強化を図ります**

シェアリングネイチャー活動に活かせる教材の開発などを進め、シェアリングネイチャー活動の持続的な展開を支えていきます。また、本部事務所におけるインフラ整備なども平行して行い、質の高いサービスを継続して提供できる基盤を固めます。

### アクション3-1-3：資金的安定化を図ります

将来にわたり日本協会が安定したサービスを提供していくための財政的基盤の安定化を図るため、事業の整理を行い、必要な取り組みに重点的に経営資源を配分していくことと合わせて、効果の低い事業に対する予算やマンパワーの配分について見直しを行っていきます。収支の内容の透明な運用を行う中で、会員の合意を得ながら会員サービスの内容についても、取捨選択を進めていきます。あわせて、財政基盤の安定化のため、年間を通じた資金繰りに必要な水準の資金を積み立てていきます。

### アクション3-1-4：情報システムの強化を図ります

日本協会活動を支えるインフラとしてのデータ管理システムについて、より使い易く、高い水準のサービスが提供できるものとしていきます。その上でもっとも重要な情報セキュリティについても十分な配慮をしていきます。

### アクション3-1-5：コンプライアンスや規程などの整備を進めます

日本協会活動全体を通して、関係する法的事項についての点検を行います。また、日本協会運営に必要な諸規程について、総体的な見直しを進め、改善、廃止、新設を行って効率的で公平な事業運営を進めます。

### アクション3-1-6：寄付金を増やす取り組みを進めます

公益法人化によって寄付金受け入れへの自由度が高まるため、企業や個人などが寄付金を出しやすい仕組み作りについての研究を進めていきます。

### アクション3-1-7：協会事業安定化のためのリスク分散を図ります

新たな教材の開発・販売や出版に積極的に取り組みます。また、地域組織との連携による新たな事業の展開について検討を進めます。これらを通して収入の多様化によりリスク分散を図ります。

## **プラン3-2 安定的な事務処理基盤を構築する（地域組織ミッション）**

### アクション3-2-1：事務処理体制の見直しを図ります

事務処理を行うスタッフ事務のマニュアル化や、事務処理のための書式・手順をより簡素な形式で必要な処理が行えるように見直しを行っていきます。

### アクション3-2-2：情報セキュリティの徹底を図ります

地域組織における情報の取り扱いについて確実な管理が行われるようにしていきます。

## **プラン3-3 基盤構築を支えていく（会員ミッション）**

### アクション3-3-1：ボランティア参画を図ります

日本協会や地域組織の活動や事務作業などにボランティアスタッフとして積極的に参加します。

### アクション3-3-2：日本協会への新規事業の提案を行います

日本協会などに新規事業のアイデア提供などを行います。

### アクション3-3-3：日本協会等の寄付金募集に協力します

日本協会などが行う寄付金を募る活動に協力します。

## 中期経営計画達成への推進体制

実行計画（アクションプラン）について当該年度に実施すべき施策については、日本協会の年次事業計画に盛り込んで実施していきます

各アクションの目標達成水準を下記の4つのレベルで評価し、最終年度においてすべてのアクションが原則的にレベル4に到達することを目指して、経営資源の配分について勘案しながら、各年度におけるそれぞれのアクションの取り扱いについて定めていきます。

当該年度において取り組みを行うこととしたアクションについては、年次の日本協会の事業計画の中に、レベルを引き上げるための具体的施策を盛り込んでいきます。

具体的施策の執行は、日本協会ミッションについては年次事業計画の執行という形で、事務局長の指揮のもと日本協会事務局において行います。地域組織ミッションについては、日本協会よりそれぞれの組織に協力要請を行います。会員ミッションについては、広報手段・地域の総会などを通じて呼びかけを行っていきます。

総体的な進捗管理については、代表理事の責任のもと日本協会理事会において実施していきます。

### アクションプランの目標達成水準

レベル1	アクションの内容について検討を行うレベル プロジェクトチームを立ち上げたり、必要な情報を収集・解析したりしながら施策作りを行うような段階
レベル2	アクションの内容について試行するレベル 作成した施策などを試行的に実施し、課題の整理やよりよい施策とするための質的向上を図るような段階
レベル3	アクションの内容を実施するレベル 試行的に行った内容についての評価を行って、フィードバックされた内容を、年次事業計画の中で本格的な取り組みとして実施する段階
レベル4	アクションの内容が完了しているレベル アクションで求める答えが出る、あるいは、そこで規定された状態を維持できているなど、アクションの内容が達成・完了している段階

## 中期経営計画の見直し

おおむね4年ごとを基準として都度見直しを行います  
2020年度に改訂中期経営計画を策定し2021年度から施行します

年次の事業計画に盛り込んでいて未達成となったアクションに対する具体的施策については、背景や要因の分析を行い、次年度の事業計画においてフォローアップを行っていきます。

実現が困難なアクションについては、内容設定の妥当性と必要性の見直しを行い、必要に応じて都度見直しを行う際は是正処置を行うと共に次期の計画改定に合わせて必要な対応を行っていくこととします。

公益法人改革など大きな変革の時期にもなっているため、この計画はおおむね4年ごとを基準として都度見直しを行います。

第1ステージ：2013－2016年度（2016年度に見直し部分改訂）

第2ステージ：2017－2020年度（2020年度に見直し新ビジョン作成）

2021年度から次期中期経営計画を施行することとします。

中期経営計画 全体図

		プラン		アクション	
第1の柱 SNの理念を広く世界に発信するため、情報発信力を強化すると共に、人が育つ基盤を整備します。	1-1	SNを普及する	日本協会	1-1-1	社会のためにあるべきSNの研究を行い発信します
				1-1-2	全国の実践事例を集約・発信する活動を推進します
				1-1-3	サービス提供・情報発信の担い手を養成します
				1-1-4	国際組織、他の団体や事業者等との連携を進めます
	1-2	SNの情報を発信する	地方組織	1-2-1	地域における情報等の発信源となります
1-3	SNを実践する	会員	1-3-1	SNを自ら実践します	
第2の柱 会員の想いを一つの力に集結させていく組織体制を構築します。	2-1	双方向に「想い」を届けるルート強化する	日本協会	2-1-1	都道府県協会・地域実践団体・加盟団体との連携強化を図ります
				2-1-2	ブロック体制を活用していきます
				2-1-3	全国で統一して取り組める課題を提示していきます
				2-1-4	会員の直接的な運営参加の機会を提供します
				2-1-5	会員と共にある事務局づくりを推進します
	2-2	都道府県協会の機能を高める	地方組織	2-2-1	都道府県協会によるSN活動推進の戦略を立てます
				2-2-2	都道府県協会の組織力・行動力を強化します
				2-2-3	地域組織の発信力を高めます
				2-2-4	指導者会員の活動の場を拡充させます
				2-2-5	指導者会員の拡大と支援を行います
				2-2-6	域内における関係団体との連携を深めます
	2-3	会員として積極的な関わりを強める	会員	2-3-1	積極的に情報を受け止め、発信していきます
2-3-2				積極的な参画をとおして自己実現を図ります	
第3の柱 継続的な事業展開のために必要な運営基盤を整備します。	3-1	確固たる経営基盤を構築する	日本協会	3-1-1	日本協会スタッフの強化を図ります
				3-1-2	事業サービスのためのインフラ強化を図ります
				3-1-3	資金的安定化を図ります
				3-1-4	情報システムの強化を図ります
				3-1-5	コンプライアンスや規程などの整備を進めます
				3-1-6	寄付金を増やす取り組みを進めます
				3-1-7	協会事業安定化のためのリスク分散を図ります
	3-2	安定的な事務処理基盤を構築する	地方組織	3-2-1	事務処理体制の見直しを図ります
				3-2-2	情報セキュリティの徹底を図ります
	3-3	基盤構築を支えていく	会員	3-3-1	ボランティア参画を図ります
3-3-2				日本協会への新規事業の提案を行います	
3-3-3				日本協会等の寄付金募集に協力します	

## SNAJ 中期経営計画 取組計画

### 中期計画の取り組み方と進め方

#### <各主体の役割>

日本協会：SNの理念を広く国民に普及していく

理事会：ロードマップに従い、年次計画に必要な施策・予算を盛り込み、総会の承認を得る代表理事の責任の下、理事会において進捗管理を行う  
推進委員会メンバーの協力を得ながら、中期計画の目標達成レベルをあげていく

事務局：理事会の決定に従い、事務局長の指揮の下、年次計画を進めていく  
事業計画実現の中で中期計画を推進  
理事会・推進委員会からの求めに応じて進捗状況を評価するための資料を作成する

地域組織：日本協会と連携し、ロードマップに従い、中期計画の目標達成レベルをあげていく  
(地方ブロック：ゆるやかな連携によりSNの普及・充実を進める)  
(都道府県協会：普及戦略をたて実践、地域の実践活動をサポート、SNの地域窓口となる)  
(地域実践団体：SN活動を展開する)

会 員：日本協会・地方組織と連携し、SN活動を実践・利用しながら、ロードマップに従い、中期計画の目標達成レベルをあげていく

推進委員会：進捗状況を把握する  
目標達成レベルを上げるため、理事会（代表理事）に、必要な施策の提言を行う  
各委員が推進のための役割分担をしそれぞれの立場で協力と連絡調整を行う

評価委員会：進捗状況・取組状況の客観的な評価を行う  
計画の見直し、次期計画（案）の策定を行う

### 中期経営計画取組の全体的スケジュール

項目	内容	主体	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0
見なおし	推進委員会の立ち上げ・第1ステージ進捗管理	理事会・推進委員会		■						
	評価・見なおし作業	評価委員会				■				
	改正中期計画運用開始・第2ステージ進捗管理	理事会・推進委員会					■			
	評価・次期計画策定	評価委員会								■
立ち上げ	集中広報期間	事務局	■			■				
意見徴収	見なおしについて会員パブリックコメント	事務局				■				■

- ・推進委員会を立ち上げ推進
- ・理事会で進捗確認しながら、理事会・事務局で計画推進、推進委員会が協力・連絡調整
- ・16年に見なおし、17年から修正中期計画実施
- ・20年に見なおし、21年から次期中期計画実施

## 標準年間スケジュール

主体	内容	月												月				
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
理事会	年次計画・予算案作成			■														■
	理事会で委員会報告・進捗確認			■									■					■
推進委員会	年次計画への提言 (ネット上でとりまとめ)		■														■	
	委員会・進捗確認 (対面で話し合う) (ネット上で協議) [随時]	■						■					■			■		
総会	年次計画・予算案の承認			■														■

### <年間の取組>

- 4月 推進委員会から事務局に進捗資料の請求  
委員会を開催し、中期計画の進捗を評価、次年度の事業計画への盛り込み事項の検討
- 5月 ネット協議により検討結果をとりまとめ、代表理事に答申
- 6月 理事会に答申を報告、事業計画と予算案に反映させる  
総会で事業計画・予算案を承認
- 随時 推進委員会ネット会議随時実施し、進捗を確認
- 9月 推進委員会第1回中間会議 ネット会議 中間進捗評価 代表理事へ第1次中間答申
- 1月 推進委員会第2回中間会議 対面会議 中間進捗評価 代表理事へ第2次中間答申
- 2月 理事会で答申を報告

### <平成25年度の取り組み方>

- 9月 当面、事務局レベルで実施可能な所から進めていく
- 2月 理事会で推進委員会の設置承認  
承認後速やかに委員会を開催し、各委員の役割分担、現状の評価、活動の進め方確認

### <平成25年度中に取り組む事項>

ロードマップによる

## 中期事業計画実現に向けたロードマップ

第1の柱：SNの理念を広く世界に発信するため、情報発信力を強化すると共に、人が育つ基盤を整備します

テーマ	取組主体	NO.	アクション	目標	施策案	年度												
						1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0					
SNを普及する	日本協会	1-1-1	社会のためにあるべきSNの研究を行い発信します	・SN活用 情報の発信	研究会の立ち上げ1 手法検討1 情報収集・検討2 試行的実践3 発信4													
		1-1-2	全国の実践事例を集約・発信する活動を推進します	・専門領域、 分野別事例 ウェブ紹介	手法検討1 情報・事例集約2 内容検討3 発信4													
		1-1-3	サービス提供・情報発信の担い手を養成します	・新たな発信者の育成 および発信 方法の開拓	手法の検討1 試行的実施・検討2 担い手養成3 指導者活動4													
		1-1-4	国際組織、他の団体や事業者等との連携を進めます	・スポンサー10社確保 ・連携団体との事業実施 ・SNWWの支援実施	手法の検討1 相手先の調査2 相手先の確保3 連携事業の実施4													
SNの情報を発信する	地域組織	1-2-1	地域における情報等の発信源となります	・地域向け情報の発信 ・指導者間の情報交換の場提供	情報発信・交流の手法検討1 手法の整備と試行2 ネットワークの整備2 情報発信・交流3 定常的な実施4													
SNを実践する	会員	1-3-1	SNを自ら実践します	・日常生活にSNを活かす	自ら取り組める方法を考える1 SNAJでも場と情報を提供する2 自主的な取組として進めていく3 日常の一部として実践4													

レベル1		レベル2		レベル3		レベル4	
------	--	------	--	------	--	------	--

第2の柱:会員の想いを一つの力に集結させていく組織体制を構築します

テーマ	取組主体	NO.	アクション	目標	施策案	年度													
						1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0						
双方向に「想い」を届けるルートを強化する	日本協会	2-1-1	都道府県協会・地域実践団体・加盟団体との連携強化を図ります	・地域組織支援確立 ・意見集約ルート確立	手法検討1 手法の試行2 手法の実施3 手法が定着4														
		2-1-2	ブロック体制を活用していきます	・ブロックの方針設定 ・地域組織間の連携実施	あり方検討1 方針の検討2 実践と見なおし3 定着4														
		2-1-3	全国で統一して取り組める課題を提示していきます	・統一課題の提示	進め方検討1 課題の提示と実践2 PDCA3 定着4														
		2-1-4	会員の直接的な運営参加の機会を提供します	・会員による事業評価 ・会員意識調査実施	進め方検討1 試行2 運用3 改善しながら定着4														
		2-1-5	会員と共にある事務局づくりを推進します	・ホットラインの導入	進め方検討1 試行2 運用3 定着4														
都道府県協会の機能を高める	地域組織	2-2-1	都道府県協会によるSN活動推進の戦略を立てます	・活性化施策の立案	実施方法協議1 戦略検討2 戦略の設定・運用3 改定と継続4														
		2-2-2	都道府県協会の組織力・行動力を強化します	・組織の整理統合のしくみ確立	進め方検討1 SNAJによる支援2 試行3 実施し組織安定化4														
		2-2-3	地域組織の発信力を高めます	・地域向け情報発信	進め方検討1 SNAJによる支援2 収集・発信の試行3 実施4														
		2-2-4	指導者会員の活動の場を拡充させます	・自主事業取組強化 ・派遣広報の強化	進め方・派遣制度検討1 試行2 運用3 継続4														
		2-2-5	指導者会員の拡大と支援を行います	・養成研修講座の実施	これまでのふりかえり1 運用・継続4														
		2-2-6	域内における関係団体との連携を深めます	・連携事業の実施	進め方検討1 相手先調査2 試行3 継続4														
会員として積極的な関わりを強める	会員	2-3-1	積極的に情報を受け止め、発信していきます	・情報の受信 ・組織への提言	ルート・手法を検討1 実施3 継続的实施4														
		2-3-2	積極的な参画をとおりして自己実現を図ります	・研修や事業に年1回以上参加	機会の検討1 参加3 継続的参加4														

レベル1 ■ レベル2 ■ レベル3 ■ レベル4 ■

第3の柱:継続的な事業展開のために必要な運営基盤を整備します

テーマ	取組主体	NO.	アクション	目標	施策案	年度											
						1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0				
確固たる 経営基盤 を構築する	日本協会	3-1-1	日本協会スタッフの強化を図ります	・職員の資 質向上 ・育成計画	進め方検討1 育成計画策定2 職員研修実施3 継続実施4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		3-1-2	事業サービスのための インフラ強化を図 ります	・ <del>教材開発</del> ・本部イン フラ整備	進め方検討1 整備計画作成2 <del>教材開発3</del> インフラ整備3 継続的実施4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		3-1-3	資金的安定化を図り ます	・事業整理 ・ <del>事業収支 計算の実施</del> ・ <del>会員</del> サー ビスの整理 ・積み立て	進め方検討1 情報整理2 施策の検討2 運用3 継続的実施4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		3-1-4	情報システムの強化 を図ります	・データベ ース確立 ・セキュリ ティの確保	進め方検討1 情報整理2 施策の検討2 運用3 継続的実施4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		3-1-5	コンプライアンスや 規程などの整備を進 めます	・諸規程の 確認と見な おし	進め方検討1 情報整理2 見なおし実施2 運用4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		3-1-6	寄付金を増やす取り 組みを進めます	・寄付金の 受入100万 円/年	進め方検討1 案内先情報整理2 寄附営業2 寄附募集活動3 継続的実施4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		3-1-7	協会事業安定化のた めのリスク分散を図 ります	・事業の多 角化をねら った <del>新事業 の実施</del>	進め方検討1 情報整理2 試行2 運用3 継続的実施4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
安定的な 事務処理 基盤を構 築する	地域組織	3-2-1	事務処理体制の見直 しを図ります	・マニユア ル化	現状の把握1 課題の整理2 マニュアルの制作2 試験的運用3 見直して運用4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		3-2-2	情報セキュリティの 徹底を図ります	・セキュリ ティの確立	情報の整理1 SNAJから情報提 供2 スタッフ研修会3 継続的運用4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
基盤構築 を支えて いく	会員	3-3-1	ボランティア参画を 図ります	・ <del>スタッフ および参加 者として行 事への参加</del>	情報の整理1 継続的参加4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		3-3-2	日本協会への新規事 業の提案を行います	・日本協会 への提案、 <del>年1回以上</del>	情報の整理1 継続的提案4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		3-3-3	日本協会等の寄付金 募集に協力します	・寄附への 協力者紹介 ・募金協力	情報の整理1 相手先に紹介2 継続的募金・紹介4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

レベル1 ■ レベル2 ■ レベル3 ■ レベル4 ■